# NEWS

JAAF
HIROSHIMA
陸協ひろしまニュース
一般財団法人 広島陸上競技協会
第82号
H28.12.23発行

# 山縣亮太

Ryota Yamagata

## 日本男子トラック史上初の銀メダル

## 世界に衝撃!!

陸上人　　# FILE0020

# 競技人生を懸命に駆け抜ける

## 山縣　亮太

短距離走 | セイコーホールディングス | *Ryota Yamagata*

プロフィール　山縣亮太（やまがた・りょうた）177cm／70kg
1992年（平成4年）6月10日生まれ
広島修道中（広島）→広島修道高（広島）→慶應義塾大学→セイコーホールディングス

自己ベスト　100m　10秒03（2016年 全日本実業団選手権）
200m　20秒41（2013年 関東インカレ）
4×100mリレー 1走　37秒60（アジア新・日本新、2016年 リオデジャネイロ五輪）

広島で生まれ育ったアスリートが、世界に衝撃を与えた。2016年8月のリオデジャネイロ五輪陸上男子400mリレー。第1走者の山縣亮太（セイコーホールディングス、修道高出）が弾丸スタートでトップ争いを演じると、残る3選手も抜群のバトンリレーを披露。アンカーのケンブリッジ飛鳥（ドーム）がジャマイカに次いでゴールを駆け抜けると、五輪会場は歓声とどよめきに包まれた。日本男子トラック史上初の銀メダル。「史上最強」と呼ばれた日本リレー陣のトップランナーとして、歴史を切り開いた。

快走の伏線は男子100mにあった。予選で10秒20をマークし、2012年ロンドン五輪に続いて準決勝に進出。だが、中盤以降の伸びに不満を持った山縣は、思い切った修正に踏み出す。**「前傾姿勢の区間を長くして体の起き上がりを遅らせ、トップスピードを後ろにずらした」**。後に**「あれでスタートの感覚をつかめた」**と振り返るように、飛躍につながる決断だった。

その準決勝は自己ベスト、そして五輪の日本選手で最速となる10秒05でフィニッシュした。この時のリアクションタイムは0秒109。驚異的な反応で飛び出し、中盤以降も加速した。ウサイン・ボルト（ジャマイカ）ら世界のビッグネームにかわされて5着。日本人初のファイナリストは逃したが、このレースで得た収穫はとてつもなく大きかった。

迎えた400mリレー決勝。ジャマイカや米国など、100m9秒台の選手をそろえる強豪を相手にしても、平然とスタートの準備を重ねた。**「守りに入った瞬間から走ることが怖くなる。100mで自己新を出せた自信から、チームを勢いづけられると思った」**。またも抜群の反応で飛び出し、コーナーの内側に意識を絞ることで、体が振られてスピードが落ちるのを防ぐ。**「すべてイメージ通りだった」**。世界最高峰のレースで見せた、世界屈指のパフォーマンス。

充実した精神、肉体、技術の全ての力を凝縮した走りが、快挙の原動力となった。

快進撃は続く。五輪後の初レースとなった9月の全日本実業団対抗選手権（大阪）の100mで、日本歴代4位となる10秒03の大会新記録で優勝。自己ベストを更新したのは実に今季3度目だった。10月の岩手国体では、故郷の代表として成年男子100mに出場。悪天候と太ももの違和感で途中棄権したものの、「広島の山縣」を全国に印象付けて飛躍のシーズンを終えた。

広島市西区出身。郷土愛は人一倍だ。「広島の代表で出られる特別な大会」と位置付ける国体出場はその一端。銀メダル獲得で「時の人」となった後も、カープやサンフレッチェ広島の催しだけでなく、母校の鈴が峰小や修道学園、出身の陸上クラブで後輩たちと触れ合った。カープの黒田博樹投手や新井貴浩内野手、競泳女子200m平泳ぎ金メダルの金藤理絵選手が県民栄誉賞を受賞した際には、**「僕は取れなかったので、やっぱりまだ足りないな」**と冗談交じりで受賞に意欲をみせたほどだ。

五輪後、郷土の後輩へのメッセージを問われた時に、山縣はこう答えている。**「小学時代から、五輪の陸上でメダルを取るのは難しい**

**だろうなと肌で感じてきた。それでも、明日は今日の自分より足が速くなると信じて、日々取り組んでいるうちに、気付いたら五輪に出られていたし、メダルも取ることができた」**。ひたむきに夢とタイムを追った広島時代が、全ての原点にある。

来季は日本人初の9秒台への再挑戦がスタート。2020年には東京五輪が待つ。スポーツ選手として脂がのりきった28歳で地元五輪を迎えるのも、一つの巡り合わせだろう。**「アスリートとしてすごくいい時期を迎える。キャリアの集大成として100mを9秒台で決勝に進み、400mリレーでは金メダルを取れるように。その原動力となれるよう、しっかり準備したい」**。海田町出身の織田幹雄が、アムステルダム五輪の男子三段跳びで日本人初の金メダルを獲得したのは1928年。もっと遠く、もっと速く―。故郷の先人のあくなき向上心を受け継ぐ男が、92年後の地元五輪で新たな歴史の扉を開こうとしている。

text by K

## 山縣亮太君との出逢いから

私が初めて亮太君の走りを見たのが、彼が小学校4年の夏の大会だった。腰の位置が安定し、体に力が入らず、リラックスした走りだった。この子は絶対強くなると感じたのをよく覚えている。その後、広島ジュニアオリンピアクラブに入部し、基本を徹底的に指導した。体格は小柄で、性格はマイペース型、指導者から言われたことを自ら考え、自分なりに工夫して練習に取り組んでいた。両親も協力的で、試合にはいつも応援に来ておられた。親や先生に褒められるのが励みになっていたようだ。5年生になって、県大会では5年100mで優勝し、全国大会へと進んだ。予選、準決勝とクリアし、決勝に行ったが、体力が備わっていなくて8位という結果だった。このとき、本クラブの6年生も男子リレーで5人来ており、知り合いがたくさんいて、楽しかったようだ。6年になると、本クラブの男子キャプテンを務め、全国大会はリレーでみんなと行きたいと申し出、リレーで挑戦し県大会で優勝、全国の切符を手に入れた。全国大会では決勝に進めず悔しい思いもしましたが、このように、周りのことも気にかける子だった。中学校受験も挑戦する中、勉強が大変だから練習は休むということもなく、勉強にも陸上にも全力で取り組む姿勢が小学校のときからあった。きっと、言い訳をしたくないのだと思う。私はこんな亮太君と出会えたこと、そして活躍を心から嬉しく思っている。また、更なる飛躍を期待してる。

広島ジュニアオリンピアクラブ　会長　**藤本　法生**

## 山縣選手に贈る言葉

リオデジャネイロオリンピック400mR銀メダル、そして2大会連続の100m自己ベストおめでとう。リレーでの予選突破の後、ラインで、松澤「さあ決勝だ。この勢いで、山縣亮太らしい走りを見せてくれ。」山縣「ありがとうございます、出し切ります。」の言葉通り、最高のスタートとコーナーでの加速で山縣らしい走りを見せてくれた。ロンドンからの4年間、怪我との戦いもあり苦しい時を過ごしたが、それを乗り越え今季3度の自己ベストは成長の証だろう。これまでのオリンピック最終選考会では、100m前回3位、今回2位とまだ優勝がない。前回3位の時は後輩へのメッセージに「僕のことを忘れないでください。」と、今回2位の時は優勝したケンブリッジ選手の後にスタジアムから出てきて悔しさをにじませていた。次こそは気持ちよく優勝で、オリンピック出場を決めてもらいたい。中学・高校の6年間、大学・社会人での6年間、この12年間はいろんな形で陸上を楽しませてもらった。次の東京までの4年間は、更なる楽しみが待っているに違いない。

修道高校　**松澤慶久**

## 山縣 Ryota Yamagata 亮太

（セイコーホールディングス株式会社所属）

**第31回オリンピック競技大会（2016 / リオデジャネイロ）陸上競技**
**男子 100m　結果報告／男子 4×100mリレー　結果報告**

リオデジャネイロオリンピックは、100mの自己新記録・準決勝進出、4×100mリレーでの銀メダル獲得で大会を終えることができました。大変遅くなりましたが、皆様にお礼と大会報告をさせていただきたいと思います。

このたびの出場に際し、本当にたくさんの励ましのお言葉やご支援をいただいたことは、私の力と心の支えになりましたし、感謝の言葉が見つからないほど嬉しく、頼もしいものでした。本当にありがとうございました。

結果は100m予選10秒20　2位通過、準決勝10秒05　5位 となり、惜しくも9秒台・決勝進出の目標は果たせませんでしたが、準決勝で出した10秒05は自己新記録であるのと同時に、ロンドンからリオまでの歴代日本人最高記録に引き続き、リオから東京の計8年間オリンピック100mの日本人記録として残ることになりました。

続いて4×100mリレーですが、予選を37秒68の組1位で通過しました。これは日本新記録及びアジア新記録であり、アメリカに次ぐ全体2番目の記録での決勝進出です。

決勝は37秒60の日本及びアジア記録更新で銀メダルを獲得することができました。ゴール時点ではボルト選手擁するジャマイカには先着されたものの、アメリカをはじめとする他チームに競り勝っての銀メダルに興奮し、言葉で言い表せないほど嬉しかったです。私は両レースとも1走をつとめましたが、得意とするスタートで日本チームを勢いづかせる原動力になれたと思っています。

繰り返しになりますが、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。そしてこれからも応援、どうぞよろしくお願いします。

セイコーホールディングス　**山縣　亮太**

# 「頑張れチーム広島」岩手国体にて

みんな
よく頑張ったね！

《総合成績》天皇杯（男女）:45点（17位）
皇后杯（ 女 ）:23点（18位）

東日本大震災復興の架け橋

第71回国民体育大会／第16回全国障害者スポーツ大会
2016 希望郷 いわて国体
2016 希望郷 いわて大会
広げよう 感動。伝えよう 感謝。

### 1日目 OCTOBER 7 FRI

本年度もチーム広島として選手29名、監督・スタッフ14名で大会が始まった。大会前夜は、リオデジャネイロ・オリンピック銀メダリスト山縣亮太君も合流し、ミーティングで選手たちに「自分が育てていただいたチーム広島で銀メダルの報告ができることを大変うれしく思う。自己ベストを追い続けた結果、たどり着いたのが銀メダルだった。是非、皆さんも自己新にこだわって頑張ってほしい。」と講話をいただいた。また、銀メダルを持参して首に掛けさせて頂いたり、選手と写真を撮ってくれたりと非常に良いムードで大会に臨むことができた。

大会初日は少年男子A棒高跳びで夏の岡山インターハイ（9位）のリベンジを狙う神辺旭高校の菅颯一郎君が、強風で競技進行が非常に難しい中、自己新記録の4m95を跳び4位入賞し、幸先の良いスタートを切ってくれた。

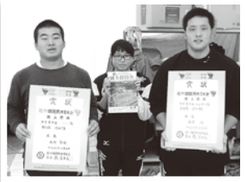
↑チーム広島

↑菅颯一郎選手

### 2日目 OCTOBER 8 SAT

2日目は雨が降り続き、最高気温13度の非常に悪天候の中、フィールド種目において少年男子B砲丸投げで祇園東中学校の大地智也君が一投目に自己新記録（広島県及び中国中学新記録）の15m73を投げ5位入賞し、その勢いで少年女子B800mの大野東中学校上田万葵さんがラストスパートで競り勝ち優勝、全中と合わせ2冠を達成した。また、その優勝直後少年男子Aハンマー投げで如水館高校の藤原峻君が3投目に大幅ベストの57m38で6位に入賞した。

また、この日行われた授与式において秩父宮章に河野裕二氏（広島陸協専務理事）と賀屋健治氏（中国実業団顧問）が、高校優秀指導者章に前田義行先生（山陽高校）、中学優秀指導者章では、杉原太志先生（長江中学校→高西中学校）が表彰された。おめでとうございます



←大地智也選手
←藤原峻選手

上田万葵選手→

### 3日目 OCTOBER 9 SUN

3日目も気温も低く雨も降った止んだりする天候不順の中、成年女子共通800mで舟入高校の池崎愛里さんが積極的なレースで3位に入賞し、そのレースから弾みをつけ少年男子A5000mで世羅高校の吉田圭太君が終始2番手につける同じく積極的なレースで2位に入賞した。最後は、本年度負けなしの成年女子ハンマー投げの渡邊茜さんが日本記録に臨んだが悪天候と悪条件から本来の投擲ができず3位に終わった。

↑池崎愛里選手

↑吉田圭太選手

↑渡邊茜選手

### 5日目 OCTOBER 11 TUE

最終日となり残る種目は1種目となったが、残念ながら入賞できなかった。これで全種目終了し、天皇杯（男女総合）17位、皇后杯（女子総合）18位に終わった。

今回の岩手国体は、雨も降り気温も下がり広島より10度も低い日があった。気候の変動の対策とエントリーから故障者、大会中の故障、そして棄権があり、全体的には思うように点数が取れなかった。しかし、その中でもジュニア層の選手がよく頑張ってくれたことは、来年の愛媛国体に向け良い刺激になったと思う。今後しっかり強化策を考え取り組むようにしていきたい。

### 4日目 OCTOBER 10 MON

4日目は雨も上がり秋空の中、少年男子共通三段跳びで三原東高校の岡本健君が第一跳躍から15m00の素晴らしい跳躍を見せ予選4位で通過し、6位入賞を果たした。その後行われた2種目目になる舟入高校の池崎愛里さんが少年女子A400m準決勝プラスで残る中、決勝で6位入賞をし、800mと合わせて2種目で入賞を果たした。

↑池崎愛里選手

### 日本陸連栄章の受章式もありました！

| | |
|---|---|
| 秩父宮章 | 河野　裕二 |
| 秩父宮章 | 賀屋　健治 |
| 高校優秀指導者章 | 前田　義行 |
| 中学優秀指導者章 | 杉原　太志 |

高校優秀指導者章の前田先生→

Time Another
Report

# 年代別レポート

## 小体連

7月3日(日)の広島県予選で1位となった14種目22名が「チーム広島」として選手団を結成し、“日清カップ”第32回全国小学生陸上競技交流大会(神奈川・日産スタジアム8月20・21日)に出場した。全国大会までに選手達の団結・競技力向上のために、2回合同練習会を行った。1回目は広島皆実高校で行う予定だったが台風で中止。2回目は東広島運動公園で行い、初めての顔合わせだったが小学生ながらの明るさで仲間意識が生まれ、良い雰囲気で全国大会1週間前を迎えた。そして、全国大会当日。天候は雨。コンディションが悪く自己ベストは6年男子100mの坂本拓望くん(福山ジュニア)と男子走幅跳の山下壮太くん(竹尋アスリート)の2名だった。男子走幅跳の山下壮太くんは7位入賞と広島県チーム唯一の入賞者だった。今年からソフトボール投げからジャベリックボール投げに変更になり、今後は投運動の普及活動の必要性を感じる大会だった。また、全国大会が行われていた8月21日、第19回全国小学生クロスカントリー広島県予選が道後山クロスカントリー場で行われ、「東広島TFC」が初の全国大会へのキップを手にした。今後も広島の小学生アスリートの活躍・活動を支えて頂きたく、皆様のご指導・ご協力のほどよろしくお願いします。

広島陸上競技協会　指導普及部長　花守　慎太郎

## 中体連

↑学校や呉市体協で成長した樫原選手

今年の中学生におけるトラック&フィールドを振り返ります。特に各種全国大会での活躍が光った。全中長野では、女子800mでは、上田万葵(大野東中3)が、女子1500mでも樫原沙紀(呉昭和中3)が共に広島県中学新記録を更新し優勝。男子砲丸投では、大地智也(祇園東中3)が何度も広島県中学記録を更新し3位、男子走幅跳で、乃美裕介(三原第三中3)が7位に入賞。いわて国体少年Bでは、上田万葵が優勝、大地智也が5位。ジュニアオリンピックではAクラスで大地智也が2位、Cクラス女子100mで脇坂里桜(府中緑ケ丘中1)が3位、同じくCクラス女子走幅跳で岡田麻奈(高西中1)が3位、ジャベリックスローABC共通で須崎航(宇品中3)が6位に入賞した。また注目の種目として、男女走幅跳で、全中標準記録を突破したのは実に7名。森愛基(大柿中3)乃美裕介(三原第三中3)本多佑莉(長江中3)荒谷弥希(福山城南中3)岡田麻奈(高西中1)吉川あやの(宇品中3)鵜飼都々菜(井口中3)。男子の森愛基においては、全中までのランキングトップの7m01を記録し、広島の走幅跳のレベルの高さを示した。全体的に今年の特徴は、選手と学校の顧問および種目を専門に指導するコーチとの連携が、成果に結びついていると思う。中学生の指導には、精神面、専門技術、体力などのいろんな要素が必要であり、学校・練習会・地域クラブなどが連携・協力していくことが、今後のレベルアップに欠かせないものと思う。このことは、一人の選手を継続して支援していける体制として重要であると考える。本県陸上競技もこの体制が、構築できつつあるように思う。ジュニア強化部を中心に小学生から中学生へのジュニア選手をしっかりサポートしていきたいと思っている。

↑国体優勝の上田選手と顧問の竹田先生

↑大地選手の支援にあたる顧問とコーチ

広島陸上競技協会ジュニア強化部長　井上　恭治

## 高体連

**2016年度高校生の活躍**
**夏から秋のシーズン、そして駅伝の季節となった。**
**本年度の全国大会入賞者は次のとおりである**

**●全国高校総体(岡山インターハイ)**
◎男子100m
2位　松尾　隆雅　神辺旭　10秒72
◎男子200m
4位　松尾　隆雅　神辺旭　21秒15
◎男子三段跳
5位　岡本　健　三原東　14m93
◎女子400m
3位　池崎　愛里　舟入　54秒64
◎女子800m
2位　池崎　愛里　舟入　2分04秒85

**●岩手国体**
◎少年男子A5000m
2位　吉田　圭太　世羅　13分59秒07
◎少年男子A棒高跳
4位　菅　颯一郎　神辺旭　4m95
◎少年男子Aハンマー投
6位　藤原　峻　如水館　57m38
◎男子三段跳
6位　岡本　健　三原東　15m00
◎成年少年女子共通800m
3位　池崎　愛里　舟入　2分06秒67
◎女子400m
6位　池崎　愛里　舟入　56秒22

**●日本ジュニア選手権**
◎男子200m
6位　松尾　隆雅　神辺旭　21秒53
◎女子800m
1位　池崎　愛里　舟入　2分07秒45

**●日本ユース選手権**
◎男子110mH
3位　福本　廉　広島皆実　14秒10
◎男子棒高跳
1位　菅　颯一郎　神辺旭　4m95
2位　岡本　江琉　神辺旭　4m90
◎女子800m
7位　徳重　夢乃　舟入　2分14秒61
◎女子100mH
3位　二本松結衣　神辺旭　13秒90

昨年度よりも全国入賞者数は減少したものの、1・2年生の活躍もみられ、来年度につながるシーズンだった。これからの冬季練習でじっくり強い身体をつくり、来年度に備えてもらいたい。

広島県高体連陸上競技部競技力向上委員長　広島皆実高校
樋口　裕志

## 学生連盟

↑出雲駅伝で力走する広島大学チーム

今年で70回目を迎えた中国四国学生陸上競技対抗選手権大会が、愛媛県で開催された。5月27日から29日の3日間にわたり競技が行われた。中でも花形である100mでは予選から白熱したレースが繰り広げられた。準決勝を10秒47と大会記録に迫る記録で通過した本部晃司(徳山大4年)が、決勝でも見事な走りで100mを制した。また、各種目では昨年に引き続き女子10000mWで優勝した山田千花(広島大3年)や男子走幅跳で優勝した藤原駿也(広島経済大4年)、4×100mR・4×400mRでどちらも優勝した広島大学など、地元広島勢も数多く活躍した。そして、9月22日。道後山では第48回全日本大学駅伝対校選手権大会中国四国地区予選会並びに第21回中国四国学生女子駅伝競走大会が開催され、駅伝シーズンの始まりを告げた。男子では広島経済大学が見事優勝し、全日本大学駅伝の出場権を獲得。出雲・全日本大学両駅伝では昨年以上の力走を見せ、好成績を修める結果となった。女子では松山大学が各区間リードを許さず優勝。その後の全日本大学女子駅伝でも後半追い上げを見せ、優勝を飾った。そして2位争いは、環太平洋大学が東亜大学を抜き、初の全日本大学女子駅伝への出場を決めた。また、10月21日から23日では中国四国学生陸上競技選手権大会が広島県で行われた。例年とは違い、来年度の西日本学生陸上競技対校選手権大会を視野に入れての運営となった。地元開催ということもあり、多くの広島県選手が活躍した。様々な大会で選手が活躍できることは県陸協をはじめ、選手を支えてくださる皆様のおかげであると感じております。今後も選手の活躍に期待をしていただき、ご支援していただければと思います。

中国四国学生陸上競技連盟広島支部
広島修道大学　平本　克樹

## 実業団連盟

**●一押し選手紹介**
**圓井彰彦選手(マツダ株式会社 陸上競技部所属)**

マツダ株式会社へ入社し、広島で活動を始めて10年、徐々に実業団連盟の顔になりつつある圓井選手を紹介する。圓井選手の魅力は積極果敢な走りと最後まで諦めない走りである。練習では自己研鑽を惜しまない姿が印象的で、その姿勢が影響してか、上を高く求めるあまり壁にぶつかることが多く、長期のスランプに陥るなど、決して右肩上がりの競技生活ではなかった。今回はそれでも年を重ねるごとに輝きを増し続ける圓井選手に、長く競技を続けるためのヒントがあると考え、インタビューを行った。

**1.陸上競技との出会い**／中学1年時(中学校にサッカー部が無く、高校でサッカーを行うための体力作り)
**2.陸上競技を19年間続けられた理由**／完璧でないから(立てた目標を達成しても、その中に課題や反省点があり、次の新しい目標になるため)
**3.練習時の取組みで大事にしていること**／試合を意識した練習をする(練習の走りを大会時に想定する等、イメージを大切にする)
**4.大会出場時に大事にしていること**／常に勝つイメージをもって臨む
**5.チームを引っ張る中で大事にしていること**／現状に満足せず、常に上を目指すことを意識付ける
**6.個人・チーム目標**／2020年東京オリンピック出場(マラソン)、2020年全日本実業団駅伝優勝
**7.広島県のみなさまへ**／広島県は陸上競技が盛んなので、ジュニア層の選手が全国大会で活躍している姿を見ると、とても刺激になります。また、ひろしま男子駅伝では、他県出身の私を広島県民の一員として応援くださり、本当に感謝しています。これからも一緒に広島県の陸上競技を盛り上げていきましょう。

広島県実業団陸上競技連盟　事務局
中国電力　本多　浩隆

圓井　彰彦(つむらい　あきひこ)
32歳　福島県出身
5000m(13分39秒71)
10000m(28分16秒99)
ハーフマラソン(1時間01分58秒)

→2016
中国実業団対抗駅伝競走大会～
大会MVP優勝に貢献

## マスターズ連盟

改めて、広島マスターズ陸上とは? を簡略に記します。

**先ず、広島マスターズ陸上とは?**

①年齢は男女とも満18歳以上の方で、実業団・学連登録者の方も入会できます。②中高年を主体とした、陸上競技愛好者で組織するクラブです。多くの中高年者も活動する、陸上競技愛好者のクラブです。③健康な方なら、どなたでも入会することができます。

**次いで、どんなことを目的に?**

①陸上競技を通じて、心身の健康増進を図る。②記録への挑戦などにより、生きがいのあるライフワークに寄与する。③アマチュア陸上競技の普及と、生涯スポーツの振興を図ることなどを目的にしています。

以上のように、陸上競技を志す方、総ての方が楽しめる組織です。2016年度も新しい仲間が100名近く加わり「県選手権大会」「中国大会」「全国大会」そして「記録会」等に参加し自己記録や目標記録へチャレンジされました。2017年度は「35回記念県選手権大会」が、6月にびんご運動公園で計画されています。生涯スポーツで健康と生きがいつくりにご参加を。

●詳細は広島マスターズ陸上HPをご参照下さい。
ホームページアドレス
http://sports.geocities.jp/mastershiroshima/

広島マスターズ陸上　広報　前田　征四郎

## バトンが繋ぐもの

専務理事　河野　裕二

8月20日（土）午前11時前、全国小学生陸上競技交流大会が開催されていた横浜スタジアムのビジョンに快挙が大写しされた。会場内は、割れんばかりの大歓声であった。リオ五輪陸上男子400メートルリレーで、日本チームが史上初の銀メダルを獲得したのである。その銀メダルのバトンは、スターティングブロックから矢のように飛び出した山縣選手の見事な走りからスタートした。そして、そのバトンは夢をのせ、銀メダルのバトンとして、ボルトの次にフィニッシュラインを駆け抜けた。未来を目指す小学生達にはこのシーンがどう映ったのだろうか。きっと、自分の姿を重ね、世界を夢見た小学生が沢山いたことだろう。あなたは、日本全国、いや世界中の人々に心のバトンも渡してくれた。山縣選手、ありがとう。そして、本当におめでとう。さあ、これからだ。さらなる飛躍、夢の9秒台を。

さて、今シーズンはまだ終了していないが、ジュニア選手達の活躍で広島の陸上競技界も元気づいている。全国男子駅伝も女子駅伝も全国高校も全国中学校も、そして、国民体育大会も中・高のジュニア選手達の活躍が目立った。ジュニア選手達の活躍には元気をもらう。未来が見えてくるからだ。そして、バトンのように選手を中心として、選手と選手を支える人々の心が繋がっていく。陸上競技に取り組む全ての選手達が、陸上競技に挑戦することを通じて、人としての自分を成長させて欲しい。そして、指導者達もまた、選手達と歩むことによって、さらに自己研鑽を積むことができる。ありがたいことだ。私自身もまた、謙虚さと感謝の気持ちを忘れずに頑張りたいと思う。カープに続き、私達も皆で、広島をさらに元気に。

平成28年度

# 一般財団法人広島陸上競技協会 受賞者名簿

## 文部科学大臣表彰
（生涯スポーツ功労者）

東川　安雄（広島陸上競技協会副会長）

## 公益財団法人日本陸上競技連盟栄章

秩父宮章　河野　裕二（広島陸上競技協会専務理事）

秩父宮章　賀屋　健治（元中国実業団陸上競技連盟事務局長）

高校優秀指導者章　前田　義行（山陽高校教諭）

中学優秀指導者章　杉原　太志（長江中学校→高西中学校教諭）

高校優秀選手章　小吉川　志乃舞（世羅高校→ユニバーサルエンターテイメント）

中学優秀選手章　福本　廉（海田中学校→広島皆実高校）

安藤百福記念章　小林　康史（神辺走ろう会）

## 公益財団法人広島県体育協会体育賞

【功労者の部】
●藤原　文代（広島陸協）　●郷力　礼三（広島陸協）
●髙津　眞廣（広島市）　●俊成　茂哲（大竹市）

## 一般財団法人広島陸上競技協会

【功労章】
●政屋　和弘（広島市）　●中元　宗俊（江田島市）
●前　義久（呉市）　●山村　文昭（竹原市）
●赤木　勝二（庄原市）　●常本　清和（豊田郡）
●岩本　邦史（マスターズ）

## 一般財団法人広島陸上競技協会

●優秀選手賞
〈国際大会の部〉
●池崎　愛里（駒澤大学）
第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会
（6月6日・ホーチミン）
女子800m　2位　2分07秒21

〈国内大会の部〉
●木村　文子（エディオン）
第100回日本陸上競技選手権大会
（6月26日・瑞穂）
女子100mH　13秒23

●チャールズ・ディランゴ（JFEスチール）
第44回全日本実業団ハーフマラソン大会
（2月14日・山口）
男子ハーフマラソン　1時間01分00秒

●宮城　壱成（東海大学）
2016日本学生個人陸上競技選手権大会
（6月12日・平塚）
男子3000mSC　8分51秒79

●髙山　峻野（明治大学）
第85回日本学生陸上競技対校選手権大会
（9月4日・熊谷）
男子110mH　14秒02

●池崎　愛里（舟入高校）
第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会
（10月22日・瑞穂）
女子800m　2分07秒45

●菅　颯一郎（神辺旭高校）
第10回日本ユース陸上競技選手権大会
（10月22日・瑞穂）
男子棒高跳　4m95

●友谷　匡希（星槎国際高校広島）
第51回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
（8月13日・駒沢）
男子3000mSC　9分51秒08

●上田　万葵（大野東中学）
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会
（8月23日・松本平）
女子800m　2分10秒56
第71回国民体育大会
（10月8日・北上）
少年女子B・800m　2分10秒86

●樫原　沙紀（昭和中学）
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会
（8月24日・松本平）
女子1500m　4分27秒89

〈第71回国民体育大会優勝および入賞の部〉
［1位］●上田　万葵（大野東中学校）
少年女子B800m　2分10秒86
［2位］●吉田　圭太（世羅高校）
少年男子A5000m　13分59秒07
［3位］●渡邊　茜（丸和運輸機関）
成年女子ハンマー投　59m49
●池崎　愛里（舟入高校）
成年少年女子800m　2分06秒67
［4位］●菅　颯一郎（神辺旭高校）
少年男子A棒高跳　4m95
［5位］●大地　智也（祇園東中学校）
少年男子B砲丸投　15m73
［6位］●藤原　峻（如水館高校）
少年男子Aハンマー投　57m38
●岡本　健（三原東高校）
少年男子共通三段跳　15m00
●池崎　愛里（舟入高校）
少年女子A400m　56秒22

## 一般財団法人広島陸上競技協会

●新記録賞
〈県記録〉
●福部　真子（日本体育大学）
女子400mH　58秒26
第95回関東学生陸上競技対校選手権大会
（5月22日・日産スタジアム）

●池崎　愛里（舟入高校）
女子400m　54秒64
第69回全国高等学校総合体育大会
（7月29日・岡山）

●髙山　峻野（明治大学）
男子110mH　13秒58
第70回中国五県対抗選手権大会
（8月20日・岡山）

〈県高校記録〉
●池崎　愛里（舟入高校）
女子400m　54秒64
第69回全国高等学校総合体育大会
（7月29日・岡山）

●岡本　健（三原東高校）
男子三段跳　15m33
第66回広島県高等学校陸上競技対抗選手権大会
（8月28日・福山竹ヶ端）

●福本　廉（広島皆実高校）
男子110mJH　13秒86
第10回日本ユース陸上競技選手権大会
（10月21日・瑞穂）

●神辺旭高校
（髙卯健太郎・松尾隆雅・山下雄大・富山弘貴）
男子4×100mR　40秒61
第69回中国高等学校陸上競技対校選手権大会
（6月17日・岡山）

〈県中学生記録〉
●上田　万葵（大野東中学校）
女子800m　2分10秒56
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会
（8月23日・松本平）

●樫原　沙紀（昭和中学校）
女子1500m　4分27秒89
第43回全日本中学校陸上競技選手権大会
（8月24日・松本平）

●大地　智也（祇園東中学校）
男子砲丸投　15m73
第71回国民体育大会
（10月8日・北上）

●特別表彰
●山縣亮太
男子4×100mR　銀メダル　37秒60（アジア新記録）
第31回オリンピック競技大会
（8月19日・リオデジャネイロ）
（日本チーム：山縣亮太・飯塚翔太・桐生祥秀・ケンブリッジ飛鳥）


青少年健全育成協力企業

●株式会社サタケ
●広島駅弁当株式会社
●株式会社広島銀行
●広島ガス株式会社
●広島電鉄株式会社
●学校法人石田学園
●株式会社中電工
●株式会社もみじ銀行
●広島綜合警備保障株式会社
●有限会社ニシヒロ
●アシックス販売株式会社
●有限会社道後山高原サービス
●有限会社BTM
●株式会社体育社
●中国電力株式会社
●大塚製薬株式会社
●株式会社ツルハグループドラッグ&ファーマシー西日本

（順不同）



平成28年12月28日　〒730-0011 広島市中区基町4番1号（公財）広島県体育協会内　Tel.082-223-3256 Fax.082-222-6991　E-mail:haaa@eos.ocn.ne.jp　URL http://hiroshimatf.org/
編集委員　藤原　文代・渡辺　勇一・為末　大・金尾　誠可・河田　慎司・政　泰治・本多　浩孝・松谷　清志・井上　恭治・鈴木　晶雄・以南　めぐみ・塩出　諒